

日中洗骨改葬の比較研究

沖縄と福建省西部の場合

Comparative Study of Re-burial Rituals in China and Japan:
Western Fujian Province of China and Okinawa of Japan

蔡文高

はじめに

①日中洗骨改葬の比較研究の現状と問題点

②中国の洗骨改葬

③日本（沖縄）の洗骨改葬

④両地域の洗骨改葬の類似点と差異点に関する考察

終わりに

【論文要旨】

洗骨改葬は、かつて沖縄、南部中国、朝鮮半島や、東南アジア諸地域などに広く行われ、中国においては、福建省西部など一部の地域では今でも現行習俗として行われている葬法である。沖縄は歴史上、中国と深い関係を保っていたため、その文化は中国からの影響を大きく受け入れていた。民俗文化の一部である葬送習俗も、そして、当然洗骨改葬も南部中国の似たような習俗から影響を受けたことは推測できる。

しかし、両地域の洗骨改葬は歴史上密接な関係を持っていることは予測しえても、この両地域の文化的・社会的・自然的な生活環境などが異なっているため、その後の各自の変化が激しく、現在に至っては類似点もあれば、差異点もかなり多いと推測しうる。

本稿では、沖縄と福建西部の洗骨改葬について、先行研究の成果を駆使しながら、私の福建西部でのフィールドワークによって得た資料を加え、両地域の習俗の類似点に着目して、その相互影響関係を追究するほか、両地域の洗骨改葬の特徴、特にその差異点にも注目し、その差異から見えた両地域の人々の死霊観や祖先観の違いなどを検討した。

論立ては次のように展開されている。まず、日中洗骨改葬の比較研究の現状を述べ、問題点を指摘した。次に、中国の洗骨改葬の歴史や分布、福建西部の洗骨改葬の現状、沖縄の洗骨改葬の諸要素などを簡単に紹介した。その上、両地域の洗骨改葬について、若干の比較を行った。

結論は、両地域の洗骨改葬の類似点からは、影響関係をうかがうことができ、また差異点からは、両地域の人々の死霊観や祖先観の違いを見出せると指摘した。

キーワード：洗骨改葬、死霊観、祖先観、沖縄、福建省西部